

#### 4) 先進的な活動の取組みの紹介

ワークショップ参加者による行動計画検討の一助として、表 3-2 に示すような事例を参考情報として紹介し、先進的な取組みを行動計画に反映しやすいように情報提供と意識付けを行った。また、防災・防犯に関する対応能力を向上させるためのプログラム例として、表 3-3 の内容を紹介した。

表 3-2 全国の活動事例

<b>①多世代の参加を促進するための取組み</b>	
<b>【大学を活用した多世代交流】</b> 小学生、地域の役員、住民の多世代交流の場を提供し、ともに地域福祉について話し合う活動を実施している。	龍谷大学短期大学部
<b>②多様な主体の参加を促進するための取組み</b>	
<b>【小学校と地域が培ったコミュニティ】</b> コミュニティールーム（余裕教室4室）の運営を中心に、学校と家庭・地域が融合して子育て、子育ちを進めることを目的として様々な地域活動を実施している。特に父親の参画が多いことが特長である。	習志野市 秋津コミュニティ
<b>【大学、地元住民、防災関係機関との連携】</b> 産学官民連携・協働による委員会を組織し、継続的に減災活動、学習を展開している。	東北福祉大学地域減災センター（地震・津波に強いまちづくり実行委員会）
<b>【地域住民、大学、商店街、行政の協働】</b> 全国の9つの大学と商店街が交流し、「商学交流フォーラム」を開催したとともに、地元計画提案による公共事業方式を実施している。	横浜市保土ヶ谷区
<b>③情報共有・受発信力を強化した取組み</b>	
団地内のインターネットラジオを通じて音声で地域番組を配信し、情報共有を行っている。	加古川グリーンシティ防災会
<b>④リーダー育成・交流ための取組み</b>	
消防署の協力を得て、地域の防災リーダーを育成。	南アルプス市 等
<b>【健康管理やレクリエーション等の講座の開催】</b> 高齢者がその持てる力を十分に発揮し、地域のリーダーとして活躍できる社会の実現を目指し、また地域に貢献できるボランティアを養成することを目的として運営している。	社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会
<b>⑤要援護者支援を意図した取組み</b>	
安心カードと呼ばれる目印を軒先に飾り、生徒が下校時に「黄」にして、朝お年寄りが「赤」に変え、安否を日常から確認している。	福島県立双葉高校
<b>⑥持続的な活動としていくための取組み</b>	
世田谷太子堂2・3丁目地区は住民参加による修復型の密集市街地の改善を26年間という長期に渡って取り組んでいる。	世田谷区太子堂2・3丁目地区
<b>⑦資金調達等の取組み</b>	
募金型の公益信託による支援（世田谷区まちづくりファンド）助成による資金的支援によって、区民のまちづくり活動を支援している。	公益信託 世田谷まちづくりファンド

表3-3 防災・防犯の視点からの活動メニュー例

目 的	活動メニュー
地域の安心安全に関する状況に関する意識・認識の向上を目的とした取組み	防災・防犯出前講座 防災まちあるき 防犯パトロール わがまち安全マップの作成 (防災・防犯)
家族との連絡方法の確認を目的とした取組み	災害伝言ダイヤル体験 家族防災メモの作成
災害の疑似体験などにより、災害時の適切な行動能力の向上を目的とした取組み	避難訓練、帰宅訓練 起震車の体験、降雨体験、浸水状況下での歩行体験
応急対応に必要となる行動の訓練を目的とした取組み	資機材の活用訓練、消火訓練 土嚢積み訓練
連絡体制の強化を目的とした取組み	地域伝言ゲーム 地域コミュニティネットワークの構築
要援護者対応を目的とした取組み	要援護者の支援体験 要援護者マップの作成
応急救護の能力の向上を目的とした取組み	担架リレー 応急救護訓練 (AED等)
避難生活のイメージ向上を目的とした取組み	避難所での生活体験、キャンプ、芋煮会 保存食の料理教室 仮設トイレや簡易トイレの体験 浄水機器の体験

(4) 第3回社会実験の実施

1) 実施日時および場所

- 有明台小学校区： 2月23日(月) 午後7時～ 場所：有明台小学校
- 松浜小学校区： 2月24日(火) 午後7時～ 場所：北出張所
- 亀田西小学校区： 2月25日(水) 午後7時～ 場所：江南区役所

2) 実施内容

- ①グループ作業：地域コミュニティを活性化するための方法を考えるために、地域で取り組む「活動内容」と「工夫する点」を検討した。
  - ・「活動内容」と「工夫する点」について各自で付箋紙に書き込む
  - ・各自記入した付箋紙の内容を順番に説明し、グループ内での共有を行う
  - ・グループとしての意見の集約化を図り、とりまとめた。
- ②グループ発表：各グループで議論した行動計画について、実現していく際の課題や地域で安全安心なまちづくりを展開していくための課題を出しあった。
  - ・各グループのアイデアをグループ間で共有した。
  - ・各グループのアイデアを踏まえ、より具体的な課題を明らかにして来年度以降の実施に向けたコンセンサスを得た。
- ③全体のまとめ：全体ファシリテーターによる全体意見と方針に関する総括
  - ・総括として、全体を通じての意見のとりまとめを行った。
  - ・3回のワークショップでまとめた結果を来年度以降に進めていくための課題認識や、継続的な検討や活動の意義について意識付けを行った。



写真 第3回 社会実験の状況